

1 開催概要

日 時 令和8年7月23日(木) 14:00~16:00

場 所 宮崎県庁企業局県電ホール

テーマ 2040年を見据えた宮崎の未来を担う人づくり

～「宮崎県高校教育改革実行計画(仮称)」策定に向けた検討～

2 主な協議内容

(1) 2040年に向けた高校教育の方向」

○文理横断的な学びと幅広い教養の重要性

- ・AI時代こそ、倫理や哲学、歴史などの文系的素養(リベラルアーツ)や行動経済学・心理学といった人間への深い理解が不可欠。
- ・激変する環境に適応する根本の「思考インフラ」として、言葉(国語)と論理(数学)の徹底した基礎学力が最も重要。

○生徒の主体的な学びの育成

- ・一律の教育で同じ人材像を目指す時代ではない。自分で考え、主体的に決めて行動する「自律的な子どもの育成」を公教育のコアに据えるべき。
- ・自分の行動に自己責任を持つ力(エージェンシー)を育み、周囲と協働して価値を創出する力を培うことが必要。

○キャリア教育と人間力の育成

- ・若年者の早期離職防止や自己肯定感・レジリエンス向上のため、高校時代から産業界と連携した「インターンシップ」や、社会と繋がった「探究学習」をシステム化すべき。

(2) 学校の配置、規模の適正化

○保護者・当事者の負担と切実な要望

- ・通学環境の悪化(バス・列車の便数減、長距離通学)に伴う交通費や寮費の負担が重く、サポートが手厚く利便性の高い私立高校に生徒が流出する逆転現象が生じている。県は寮やスクールバスの完備など実質的な支援を行うべき。

○県立高校は情報発信や学校のアピール力をさらに強化し、各校の強みを明確に示すべき。

○小規模校の存続と魅力ある学校づくり

- ・学校は「地域の核」として極めて重要であり、統廃合は慎重であるべき。各エリアに特色ある学校を1校は残し、徹底した少人数指導や県内外から生徒が集まる「尖った魅力的な学科」を創出するスクラップ・アンド・ビルドの視点が必要。

○36校の県立高校ネットワークを活用し、ICTや遠隔授業を通じて学科の垣根を超えた単位交換や学び合いを可能にすべき。